2023年6月21日現在

登録番号　第 23752 号

MIC ベネビア®OD

特長：	●チョウ目害虫に加えて、ハモグリバエ類、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類などの微小害虫も、まとめて防除することができます。 ●害虫によるトマト黄化葉巻病、きゅうり黄化えそ病のウイルス媒介を抑制する効果があります。 ●ミツバチ、マルハナバチへの安全日数は1日です。 ●天敵、微生物農薬に対する影響が小さく、IPMに適しています。 ●独自のオイル製剤で優れた浸達性と局所的な移行性、耐雨性があります。

有効成分	シアントラニリプロール(化管法第2種)・・・10.3%	包装	500ml×20 250ml×20×2
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】　　2023年6月21日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
ｷｬﾍﾞﾂ	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾖﾄｳﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ｳﾘﾊﾞ類 ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)
	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾖﾄｳﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ｳﾘﾊﾞ類 ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ	20倍	1～2 L/10a			無人航空機による散布	
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000倍	100～300 ﾘｯﾄﾙ/10a			散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
はくさい	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾖﾄｳﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ｳﾜﾊﾞ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	2000 倍					
だいこん	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ｶﾌﾞﾗﾊﾊﾞﾁ類 ﾀﾞｲｺﾝﾊﾑｼ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、 は種後の処理は 3 回以内)
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	2000 倍				散布	
	ﾖﾄｳﾑｼ	4000 倍				散布	
	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ｶﾌﾞﾗﾊﾊﾞﾁ類 ﾀﾞｲｺﾝﾊﾑｼ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ ﾖﾄｳﾑｼ	20 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内)
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍					
	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	20 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ﾄﾏﾄ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (定植時までの処理及び 定植直後の株元灌注は 合計 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾄﾏﾄｷﾊﾞｶﾞ	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
ﾐﾆﾄﾏﾄ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内）
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾄﾏﾄｷﾊﾞｶﾞ	2000 倍					
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｳﾘﾉﾒｲｶﾞ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内）
ﾚﾀｽ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ ｳﾜﾊﾞ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内）
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍					
非結球ﾚﾀｽ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ ｳﾜﾊﾞ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内）
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍					
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内）
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000 倍					
ししとう	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内）
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000 倍					
いちご	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内）
	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	2000～4000 倍					
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000 倍					
ｵｸﾗ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫開始 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
えだまめ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（は種前の処理は 1 回以内、は種後の処理は 3 回以内）
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍					
	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ	32 倍	0.8～2.4 L/10a			無人航空機による散布	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		1.6～2.4 L/10a				
だいず	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内（は種前の処理は 1 回以内、は種後の処理は 3 回以内）
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍	100～300 L/10a				
	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ	32 倍	0.8～2.4 L/10a			無人航空機による散布	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		1.6～2.4 L/10a				
さやいんげん	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2000 倍					
かぼちゃ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2000 倍	100～300 L/10a				
	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	20 倍	1～2 L/10a			無人航空機による散布	
ねぎ	ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳｱｻﾞﾐｳﾏ類ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の処理は 3 回以内（但し、株元灌注は 1 回以内）））
		20 倍	1～2 L/10a			無人航空機による散布	
たまねぎ	ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a				
	ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳﾊｽﾓﾝﾖﾄｳﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類ｱｻﾞﾐｳﾏ類	20 倍	1～2 L/10a			無人航空機による散布	
にんにく	ｱｻﾞﾐｳﾏ類ﾈｷﾞｺｶﾞｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
		20 倍	1～2 L/10a			無人航空機による散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
やまのいも	ﾅｶﾞｲﾓｺｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	4000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
		40 倍	1～3 L/10a			無人航空機 による散布	
かんしょ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾅｶｼﾞﾛｼﾀﾊﾞ ｱﾘﾓﾄﾞｷｿﾞｳﾑｼ ｲﾓｿﾞｳﾑｼ ﾖﾂﾓﾝｶﾒﾉｺﾊﾑｼ ﾋﾙｶﾞｵﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
		40 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ばれいしょ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍					
	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	40 倍	2～3.2 L/10a			無人航空機 による散布	
にんじん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ﾖﾄｳﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｷｱｹﾞﾊ	4000 倍					
未成熟とう もろこし	ﾑｷﾞｸﾋﾞﾚｱﾌﾞﾗﾑｼ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ｱﾜﾉﾒｲｶﾞ ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ﾂﾏｼﾞﾛｸｻﾖﾄｳ	2000～4000 倍					
	ｱﾜﾉﾒｲｶﾞ ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ﾂﾏｼﾞﾛｸｻﾖﾄｳ ﾑｷﾞｸﾋﾞﾚｱﾌﾞﾗﾑｼ	40 倍	2～3.2 L/10a			無人航空機 による散布	
たばこ	ﾖﾄｳﾑｼ ﾀﾊﾞｺﾉﾐﾊﾑｼ	4000 倍	100～180 L/10a	収穫 10 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用前によく振ってから使用すること。
(2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
(4) アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけること。
(5) やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
(6) アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
(7) きゅうりに使用する場合、ＴＰＮを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
(8) トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意すること。
　1) アゾキシストロビンを含む農薬との混用はしないこと。
　2) アゾキシストロビンを含む農薬を散布した場合には、散布後２週間以上間隔をあけて本剤を使用すること。
(9) はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当っては事前にその適否を確認すること。
(10) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。

(11) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
1) 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
(12) 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用すること。
(13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(14) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
2) 無人航空機による散布で巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
3) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。 また、地上散布では散布直後から１日後まではミツバチの巣箱を移動させるか、巣門を閉じること。
4) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(15) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
(16) 空容器はほ場などに放置せず、３回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
(17) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

(1) 誤飲などのないよう注意すること。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
(5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
(6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項－－－

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。